

1 調査の概要

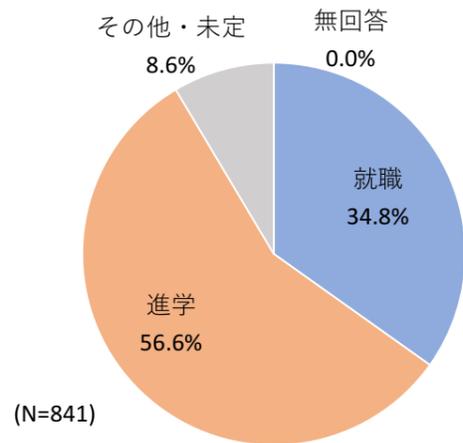
本調査は、「第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン（令和6～10年度）」の策定に当たり、圏域住民等の日常生活の満足度や行政ニーズ等を把握するため調査を実施した。

調査実施期間	令和4年12月1日～12月21日
調査対象	一関市内の高等学校・工業高等専門学校に通う2学年の生徒
配布数	1,171人（2学年全生徒）
抽出方法	学校を通し2学年生徒に依頼
調査方法	原則WEBによる回答
有効回答数	841件（回答率71.8%）

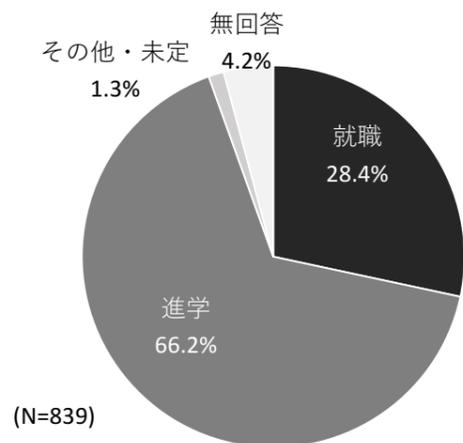
2 調査結果

（1）回答者の将来の希望

① 進路の希望



【前回調査（H29）】



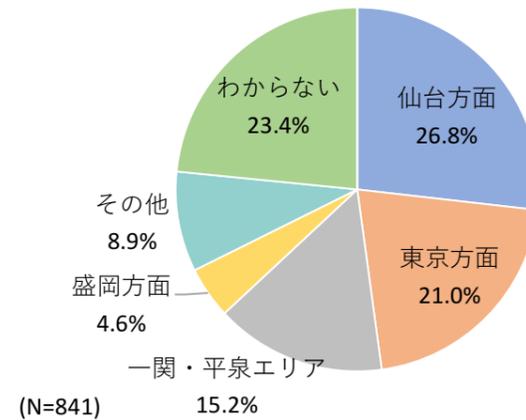
- 今年度調査では、「進学」が56.6%と最も高く、全体の半数を占めている。次いで「就職」が34.8%、「その他・未定」が8.6%となっている。
- 前回調査比較では、「進学」が9.6ポイント減少し、「就職」が6.4ポイント増加している。

② 将来就きたい職業

就きたい職業 n=841		
1	製造業（工場系）	10.6%
2	医療・看護系	10.5%
3	公務員	8.9%
4	教育・保育系	7.7%
5	IT・情報・通信系	7.0%
6	建設業系（設計・建築・土木）	5.9%
7	理容・美容・服飾系	3.4%
8	スポーツ・芸能・芸術系	2.9%
9	その他の自由業・サービス系	2.9%
10	介護・福祉系	2.7%
11	観光業系	2.1%
12	飲食店系	2.0%
13	学術研究系	1.5%
14	農林水産業系	1.2%
15	銀行・保険系	1.2%
16	報道・マスコミ系	0.4%
	その他	5.8%
	決めていない	23.2%

- 「決めていない」が23.2%と最も高く、決めている場合は「製造業（工場系）」（10.6%）が最も高い。
- 次いで「医療・看護系」（10.5%）、「公務員」（8.9%）の順で高くなっている。

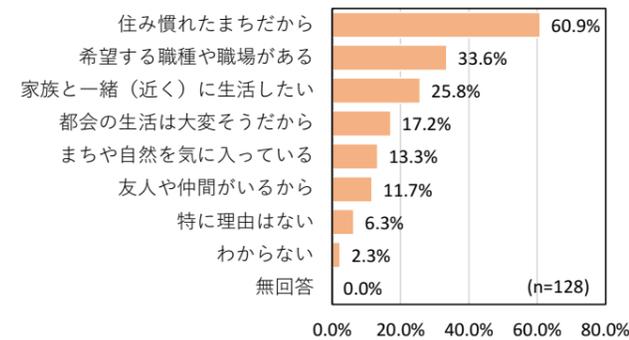
③ 将来就職を希望する地域



(N=841)

- 「仙台方面」が26.8%と最も高い。
- 次いで「東京方面」（21.0%）、「一関・平泉エリア」（15.2%）の順で高くなっている。

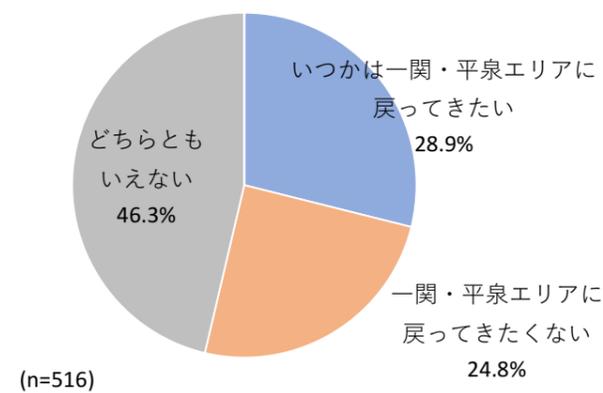
一関・平泉を希望する理由



- 「住み慣れたまちだから」が60.9%と最も高い。
- 次いで「希望する職種や職場がある」（33.6%）、「家族と一緒に生活したい」（25.8%）の順で高くなっている。

④ Uターン希望

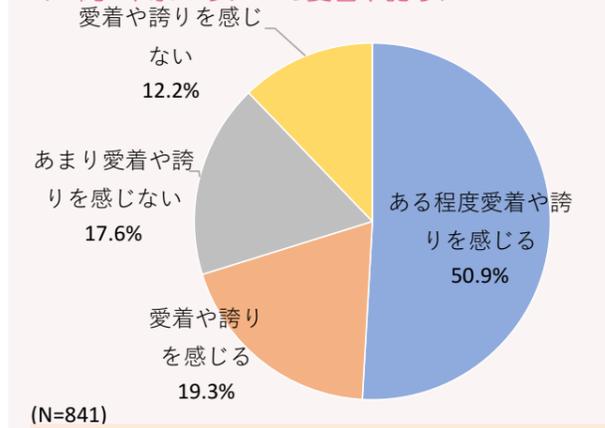
Uターンの希望



(n=516)

- 「どちらともいえない」（46.3%）、「いつかは一関・平泉エリアに戻ってきたい」（28.9%）、「一関・平泉エリアに戻ってきたくない」（24.8%）の順で高くなっている。

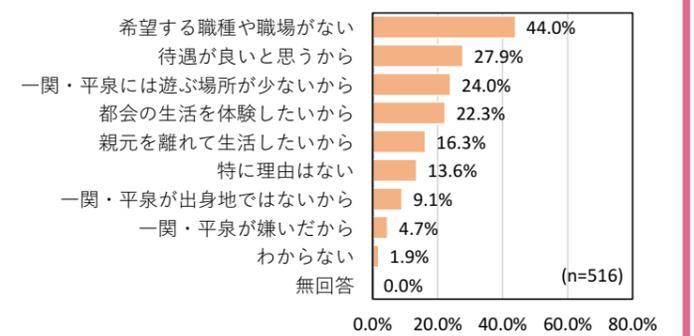
<一関・平泉エリアへの愛着や誇り>



(N=841)

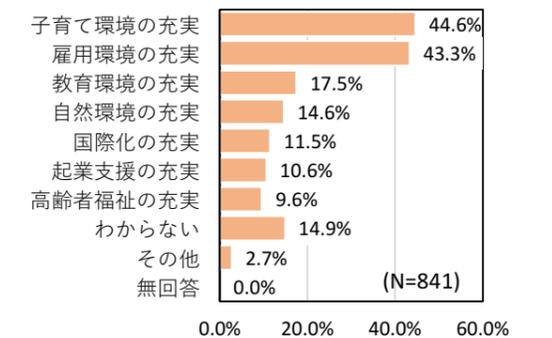
- 「ある程度愛着や誇りを感じる」が50.9%と約半数を占めている。
- 次いで「愛着や誇りを感じる」（19.3%）、「あまり愛着や誇りを感じない」（17.6%）の順で高くなっている。「愛着や誇りを感じる」と「ある程度愛着や誇りを感じる」を合わせると70.2%を占めている。

一関・平泉以外を希望する理由



- 「希望する職種や職場がないから」が44.0%と最も高い。
- 次いで「待遇が良いと思うから」（27.9%）、「一関・平泉は遊ぶ場所が少ないから」（24.0%）の順で高くなっている。

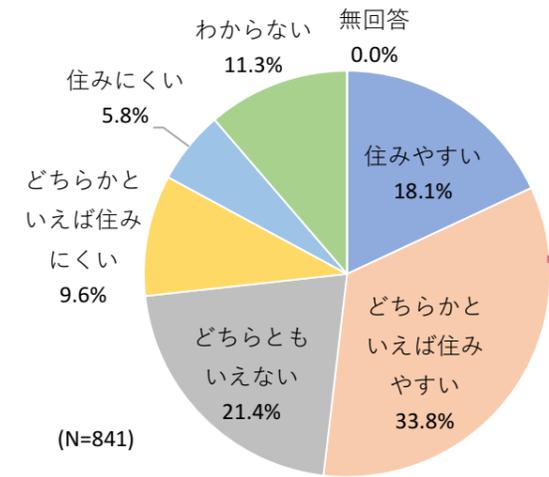
Uターンしやすい将来の環境



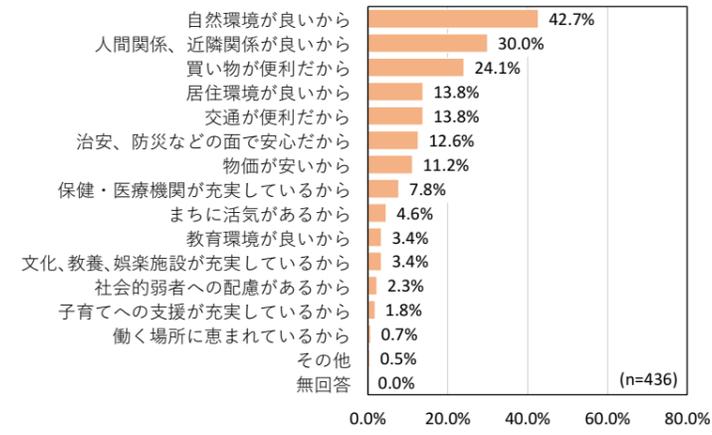
- 「子育て環境の充実」が44.6%と最も高い。
- 次いで「雇用環境の充実」（43.3%）、「教育環境の充実」（17.5%）の順で高くなっている。

(2) 一関・平泉エリアの住みやすさ

① 一関・平泉エリアの住みやすさ

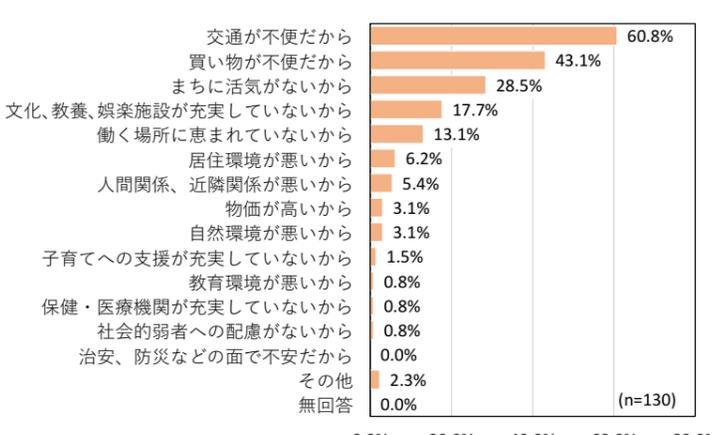


② 住みやすい理由



●「自然環境が良いから」が42.7%と最も高い。
●次いで「人間関係、近隣関係が良いから」が30.0%、「買い物が便利だから」が24.1%となっている。

③ 住みにくい理由



●「交通が不便だから」が60.8%と最も高く半数以上を占めている。
●次いで「買い物が不便だから」が43.1%、「まちに活気がないから」が28.5%の順で高くなっている。

(3) 施策の「満足度」と「重要度」

施策の「満足度」と「重要度」をより的確に分析するため以下のように係数（ウェイト）を設定し、加重平均による指標化を行った。

・「満足」の件数×2点+「やや満足」の件数×1点+「どちらともいえない」の件数×0点+「やや不満」の件数×-1点+「不満」の件数×-2点 ÷ (回答者件数-無回答件数)
・「重要」の件数×2点+「やや重要」の件数×1点+「どちらともいえない」の件数×0点+「あまり重要でない」の件数×-1点+「重要でない」の件数×-2点 ÷ (回答者件数-無回答件数)

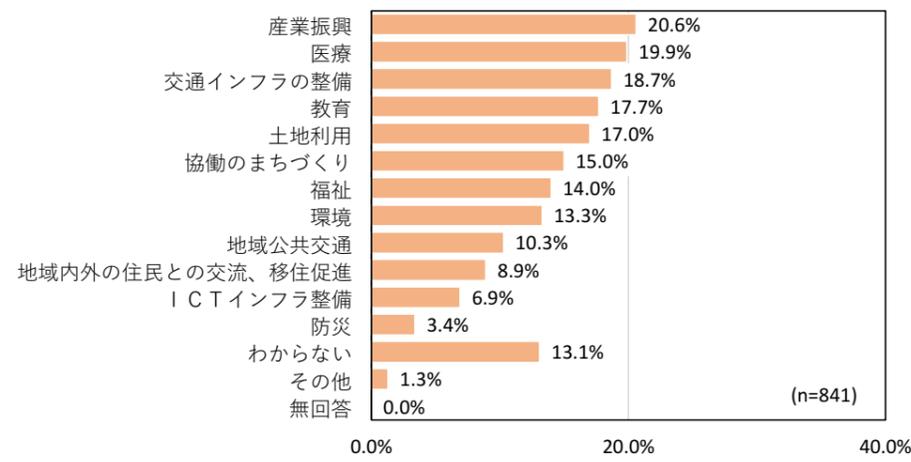
① 現状の満足度

満足度が高い施策5位まで	満足度が低い施策5位まで
1 農産物の豊富さ (0.98)	1 娯楽施設の充実 (-0.51)
2 文化施設の充実 (0.95)	2 公共交通体制の充実 (-0.21)
3 防災・消防救急等の安心度 (0.74)	3 観光地としての魅力 (0.10)
4 上下水道の充実 (0.67)	4 定住や結婚支援の充実 (0.11)
5 保健・医療体制の充実 (0.65)	5 雇用機会の充実 (0.12)
防犯・交通安全等の安心度 (0.65)	

② 今後の重要度

重要度が高い施策5位まで	重要度の低い施策5位まで
1 公共交通体制の充実 (1.36)	1 住民参画機会の充実 (0.68)
2 高等教育機関の充実 (1.32)	2 文化的催しの豊富さ (0.69)
3 保健・医療体制の充実 (1.28)	3 公営住宅の充実 (0.72)
4 道路整備の充実 (1.27)	4 定住や結婚支援の充実 (0.81)
5 情報通信網の充実 (1.25)	5 ｽｰｯ等施設の充実 (0.84)

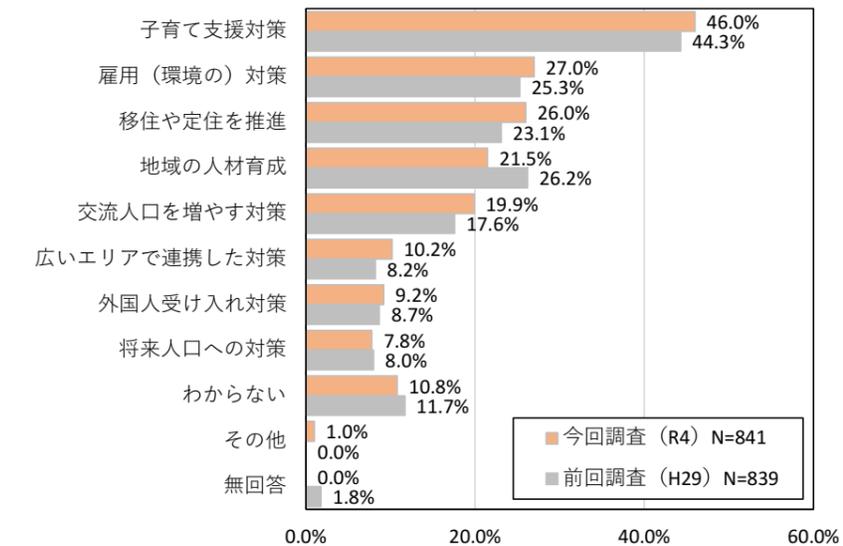
(4) 今後力を入れていくべきと考える分野



●「産業振興」が20.6%で最も高い。
●次いで「医療」(19.9%)、「交通インフラの整備」(18.7%)の順で高くなっている。

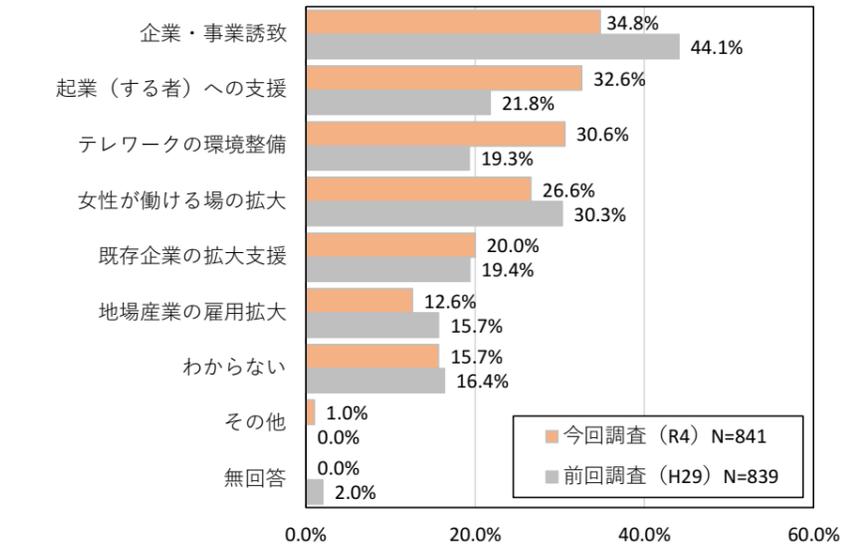
(5) 人口減少対策と雇用対策

① 人口減少への対策として取り組むべきもの



●今年度調査では、「子育て支援対策」が46.0%と最も高い。
●次いで「雇用(環境の)対策」(27.0%)、「移住や定住を推進」(26.0%)の順で高くなっている。
●前回調査比較では、今回調査の上位3つについては増加しているが、前回2番目に高かった「地域の人材育成」が4.7ポイント減少している。

② 雇用対策として取り組むべきもの



●今年度調査では、「企業・事業誘致」が34.8%と最も高い。
●次いで「起業(する者)への支援」(32.6%)、「テレワークの環境整備」(30.6%)の順で高くなっている。
●前回調査比較では、コロナ禍であることが影響し「テレワークの環境整備」が11.3ポイント増加している。また、「起業(する者)への支援」も10.8ポイント増加している。